

会報

京都マイコン研究会

第94号

(通算111号)

1995年5月1日 発行

発行人 圓口佳昭

トピックス or ニュース

新部会の提案と発足

編集部 増田

新年度に入り、新しい部会が発足されようとしていますが、会員の方で自分が知り得たい分野を提案して下さい。

次の部会が提案されています。増田「グラフィック(マイクログラフィック・デザイナー)」・圓口「簿記会計(TOP財務会計・弥生会計・弥生販売管理・小番頭・大番頭・PCA給料)」など。なお前年度からの継続部会は、Visual BASIC・DTP部会は引き続き増田が継続いたします。

このところ、2カ月に1度の合宿続きで皆さんの利用技術もアップしていると思いますが、システムがWindows対応になり、マルチメディア環境に変化したようです。とくに会長は、Windows搭載ノートを買ったと思えば、数カ月も経たないうちにまたまたFM/Vオールインワンディスクトップ機を購入。これからが楽しみです…。

例会報告

4月1日 (pm. 6:30)

大山崎ふるさとセンター

参加者氏名	圓口、岩井、中辻、若井、 増田、河原、	6名
内容	6:30 マイコンサロン 7:30 Access部会	
	8:30 今後の会の運営について	

次回例会

日時 5月13日 (土) pm. 6:30
 場所 大山崎ふるさとセンター
 内容 Access部会

春期合宿報告

1995.3.25日～26日実施

琵琶湖リゾート・クラブ

参加者 圓口・若林・岩井・小寺・中辻・若井・河原・増田

内容

25日／13:00 MS-WORD ver.6 講師 河原氏
 マクロとWordの操作手順
 MS-Visual BASIC 講師 増田氏
 各マシン不調のため中止
 総会に向けての規約その他協議

26日／9:00 DTP (アルタスページメーカー) 講師 増田氏
 原稿作成と会報制作



DOS/V機がまたコケタ！

中辻 実

今回は久しぶりに蓬莱から離れて、守山市今浜町の湖畔で静かな琵琶湖リゾートクラブでの合宿になりました。例の、Pentium問題でインテルがPentiumを交換してくれると聞いたので、早々インテルに電話で確認したら自分で放熱器の取り外しと、CPUチップの交換ができればPentiumは無償で送ること。それでは、我がDOS/V機のPentiumの放熱器が取り外せるのか、いろいろやってみたが結局むりやり取り外す結果になった。良く見てみるとPentiumと放熱器が接着状態になっていた。PentiumのZIFソケットは、取り外し用のレバーはあるが非常に堅く壊れそうなので止めた。新しいPentiumが来るまで放熱機は仮付けとし元に戻した。

放熱器を仮付けのままこのDOS/V機を合宿に持参したが、溝口さんがZIFソケットを一度見てみようということになり、結局Pentiumは簡単に外せた。ところがそれ以後動作不良を起こし最後までコケタままで合宿は終了した。

動作不良の原因は良く解からないが放熱器とCPUが密着していないので放熱効果が悪いのではないかと思っている。しかし、Pentiumの外し方(ZIFソケットの操作方法)は、私も初めてでしたが参加された方々も参考になつたと思います。しかし、せっかくの合宿もパソコンが動かなければ話にならない。

最後は、また再インストール(2回目)するハメになった。無駄な時間を費やすなければならない。

デスクトップパブリッシング プロフェッショナル部会情報

Aludasu PageMaker の変貌

昨年、アルダス社があのマックのアプリケーションやボストンスクriptでご存知のAdobe社が吸収してしまった。デスクトップパブリッシングこの言語は、アルダス社の会長が提言した言葉であることは知られていますが、DTPの先導役であったAludasu PageMaker。今回のバージョンアップではAludasuと言う名は残ったが、Adobe社が得意とするグラフィック系の処理機能が格段に増えますます高機能になった主な部分を紹介しましょう。

- フォトCDを取り込む。
コダックのフォトCDがCD-ROMからインポートでき、パブリケーションに置くことができました。
- ポストスクリプトプリンターへの出力コンバート。
- ポストスクリプト対応フォントの付随。
- マッキントッシュで作成した画像。
全てインポートできる。
- TIFFファイル画像を二段階、圧縮解凍機能。
- 文字のマルチ回転。
- 直線・曲線の幅の自由指定ができる。0.01~800ポイント。
- 画像のトリミングが可能。
- 画像のコンストラストの調整。
- 画像のプリンター出力時のスクリーン形態の指定とスクリーン線種と線のメッシュの解像度。
- インラングラフィック。グラフィックをテキストとして扱えます。

- パブリケーションの全ストーリウインドウを表示出来る。
- 許す限りのパブリケーションが開けます。
- マスターページアイテムを指定したページを非表示出来る。
- 分版出力する場合、オーバープリント指定が出来る。
- フォントの鏡像オブジェクトの反転。
- オブジェクトの傾斜。
- 点線や破線の線と線の間隔など自由に設定。
- テキストブロックの継続先の表示。
- パブリケーション表示下段にツールに対するコントロールパレットが表示され書式や数値を微調整出来る。
- 日本語表示に適用した全角文字送り機能（ワープロ的）。
- 選択文字列単位、一括文字自動詰め打ち機能。
- 合成フォントの設定。
- 拡張機能で編集の自動化や特別機能の追加が可能。
- マッキントッシュで作成されたパブリケーションを開いても無いフォントがあつても他のフォントに自動的に置き換える機能が付随。
- 文字に対して網掛けの濃度と線種、選択した文字の範囲より大きとも、小さくも自由に網を掛けることができる。
- 電算写植などの様に、ワープロなどで文字入力の際にスタイル名をその文字の先頭に入力しておけば、割り付け時に「タグ読み込み」を指定すると、自動的に文字の基本設定がなされる。優れた機能。

印刷の歴史

情報の伝達方法としての印刷 ～活版印刷の日本普及～

アルダスページメーカー5.0J

Lesson3¥Lesson¥Sample3.rtfより

私たちの暮らしにとって、きわめて密接な関係にある印刷、印刷技術はいったいどのような道筋をたどって今日に至ったのだろうか？

情報の伝達と記録。これは世界に文明が発祥して以来、人類が取り組んできた最も重要な行為のひとつである。情報の伝達方法として現在につながる印刷が最も早く始まったのは中国である。その起源がいつであったかは正確ではないが、8世紀もしくはそれより少し以前の時代と考えられ木版印刷が行なわれていたと考えられる。この中国で始まった印刷術は、奈良時代に製紙技術とともに日本に伝來した。

一方、このように中国で生まれた製紙法と、木版印刷とヨーロッパに伝わり、近代印刷術を開く基礎となった。活版印刷は、15世紀中頃ドイツのゲーテンベルクによって発明された。当時ヨーロッパでは聖書などの出版事業が盛んになったが、手で写す作業は誤りが多く、重労働であったためその苦労を見てゲーテンベルクが印刷術を開発したといわれている。活版印刷の普及は、ルネサンスの文芸復興に大きな役割を果たしたばかりか、ヨーロッパ文明の性格をも変化させた。15世紀の後半には早くも800万冊の本が印刷されたという。この数は、それまでに写本によってつくられたヨーロッパのすべての書物の数よりも多いと考えられる。これ以降、ヨーロッパの印刷術は飛躍的に発展を遂げる。また、イギリスに起こった産業革命によって印刷機械の動力化と技術の進展が実現した。

その活版印刷が、日本に伝えられたのはその後140年を経た1590年のことであった。ローマ教皇の元に派遣された天正遣使節の一一行を連れ帰ったイエズス会宣教師、バリニャーが活版印刷機とその機材一式および銅版画の彫刻法を日本にもたらしたのである。しかし、せっかく苦労して伝えられた活版印刷も豊臣秀吉によって始まったキリストian禁教の影響で、わずか20年ほどで絶えてしまった。

幕末から明治時代になると、欧米の印刷技術が次々に取り入れられた。日本における2度目の欧米活版印刷術の始まりである。1855年オランダ船が運んだ印刷機を購入し、オランダ語の原書を復刻したのは本木昌造であった。昌造は、ペリーの率いるアメリカ艦隊が下田に入港の際通訳にあたり、さらに幕府の要請に協力することにより、通詞、造船、乗船操縦などを通じて外国人に会い、海外の文化や先進技術を吸収することができた。昌造が翻訳や活版印刷、造本、出版の研究に重きをおいたのは日常の任務の中で目にした外国の書物を、日本の硯学、要人、武士に読ませたいと切望するようになつたからである。

1850年“和蘭文典文章篇”を著述した昌造は、翌年日本文字の活字の製造方法を研究して、流し込み活字（活字地金の母型から鋳造した活字）の製造に成功した。この時昌造が作った活字の大きさは、初号と1号から7号の8種であった。1869年、長崎に活版伝習所を設け、活字技術の理論と実技のベテランであったアメリカ人のガントブルを迎え実地指導を受けた。その翌年（1870年）、昌造は長年の理想を実現すべく、活版製造所を設け和文活版を工業化し、近代活版印刷の基礎を築いた。さらに翌年（1871年）には直弟子の湯川二郎が横浜に派遣し、そこで活版所を開設させた。この活版所はやがて“横浜毎日新聞”（日本最初の日刊新聞）の創刊につながる。この新聞に用いられた明朝体号数活字は昌造の考案によるものである。



ポケット型コンピュータが欲しいな (Tomoppy)

YHP HP100やHP200LX、シャープ ザウルスを通勤途中で使っている人を見かけるようになった。YHPのポケコンは何に使っているのか、老眼では内容が判らないが欲しい。けれども、欲しい周辺装置を付けると、ザウルスと同じように10万円を超える。ザウルスも良いのだが、メモ魔でない性格では宝の持ち腐れだし、HPポケコンも電池が長持ちするから本当に欲しいが、言語使ってプログラミングを本職としない職業ではやはり無駄と思い辛抱の日々を送る。

でも、NETのLOGをポケコンに放り込んで立ち読みしたい。今は電池の消耗が早いが日電デジタル・ブックで我慢だ。これなら、1.5万円で3.5"のFDDも付いていたので、投資効果は最大である。単3型NiCd電池4つを充電し、電池不足に備えて、もう一組み持ち歩いている。これで、約1時間強、使えるのだ。

さて、ディスクットプやポータブルのマシンを購入された方は、次はポケコンはどうぞ。

LANの話題

(Tomoppy)

最近、少数のマシンをネットワークで動作させている事業所が多くなったので、それらの用語の理解を深めるために電子ブック辞典、株式会社伊国屋書店発行の「コンピュータ用語」から転載をした。

1. ネットワーク

LAN<local area network>

企業内情報通信網、構内通信網、特定区域内情報通信網、ローカルエリアネットワーク、ラン
→WAN

◇そのまま「LAN」と用いられることも多い。

◇1)オフィスの1フロア、学校内、一つのビルの中といった「限られた地域」に設置、独立した各種装置(コンピュータ、端末装置、パーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ、ファクシミリ、電話など)を相互接続して通信できるよう構成されたネットワークシステムの総称。

◇さらに、コモンキャリア(common carrier)の認可を受けたり、その通信回線を「借用せず」に使えるその地域(local)だけのネットワーク(network)もLANという。OA化と共に、その必要性が強まり、広く普及してきている。

◇尚、このLANに対して、NTTの特定通信回線、公衆通信回線(電話、電信)などをワイドエリアネットワーク(WAN)と総称している。

◆Various LAN(Local Area Network) systems are being built between offices here and there. 各種のLAN(ローカルエリアネットワーク)がオフィス内のあちこちに構築されている。

◆Typically, in such a system, the user interfaces to the LAN will be intelligent workstations or personal computers. このようなシステムの場合、ユーザーとLANとのイ

ンタフェースになるのは、インテリジェント型ワークステーションないしパーソナルコンピュータである。

◇1データ通信網そのもののこと、端末装置(terminal)間の通信経路を構成する資源(resource)の集まりといえる。一般には、端末装置、中継点(node)、回線(line)、幹線(trunk)、通信衛星などを含めた相互に接続された媒体で構成されたシステムをネットワーク(network)と呼んでいる。

2. サーバ

server [←扱者] [一般: 勤務者、奉仕者、サーブする人、扱者]

▼プリントサーバ(print server)

3. データベース

database<DB>

◇data base,data-baseとも記されるが、databaseの形で使うことが多い(JISではdata base)。複数業務に共通して現われるデータを中心に集め、これらのデータ間に有機的に結合したもの。これらのデータは一定のルールに従って結びつけて利用できるようになっている。従来の業務ごとに独立したファイル処理方式に比べて、業務が拡大しても新しくファイルを準備する必要がないこと、各ファイルに同じデータが重複して存在するという無駄がなくなること、などの利点がある。

◇データベースを管理(maintenance)するシステムのことをデータベース管理システム(database management system<DBMS>)という。databaseの中でdataとdataのつながりは、それぞれのdata recordの前後にpointerをつけてデータチェーン(data chain)をつくる。このようにしてあるレコードをオーナーレコード(owner record)とし、その下にメンバーレコード(member record)をつけるという従属関係をもたせる。databaseの代表的な構造は、木構造(tree structure)である。こうした形式のデータベースの他に、リレーションナルデータベース(relational database)という、データを単なる表(リレーション)形式で表現するデータベースもある。

4. リレーションナルデータベース

RDB<relational database> [←リレーションナルデータベース、関係データベース、関係形式データベース]

◇データを階層構造でなく単なる表(リレーション;関係)で表現する形式のデータベースのこと。従来のCODASYL型のデータベースの場合、データ同志を関係づけるポインタなどをたどるが、関係(型)データベースではその必要がなく、表(table)で自由に縦横の項目(item)をアクセスできるようになっている。利用者は「表」の分割、結合が自由にでき、表への追加、変更も他に影響を与えずに行なえる。IBMサンノゼ研究所のE.F.Coddが1970年代の初めに提案したもので、その後大学や研究所で実用化への試みがなされてきた。代表的なものとしてIBMのDB2がある。

◇従来のデータベースでは、論理的データ構造(logical data structure)を意識してプログラムを作ったのに比べて、リレーションナルデータベースでは、データ項目の組は集合論でいう「関係」の概念に従って定義される。データの独立性が高く、結合(join)、制約(restriction)、射影(projection)な

どの関係操作によって飛躍的に表現能力を高くすることができる。また、これらの関係操作によって自由に構造を変えることができるのも、このリレーショナルデータベースの特徴である。

◆リレーショナルデータベース(RDB)システムとしては、DBase 2, INGRESS, QBE, RAPPORT, SQL/DSなどがある。examples of relational database(RDB) systems are DBase 2, INGRESS, QGE, RAPPORT, and SQL/DS.

関係形式データベース

5. データベース管理システム

DBMS<database management system> [←DBMS]

◇データベース(database)を管理するのに必要なデータの「追加」、「変更」、「削除」、「検索」などの機能を集大成したソフトウェアパッケージのこと。

◆利用者が書いた適用業務プログラムとそのプログラムが使うデータベース本体との間に介在する。つまり、ユーザはDBMSを介してデータベースを利用する。ユーザプログラムの中のCALLによって、DBMSにある「処理プログラム」が呼び出され、このプログラムが「データベース」の中の「データ」を利用する。このとき、同じレコードが同時にアクセスされたりすることを禁止するロック(lock)機能、機密保護のためのパスワード(password)、障害にそなえたマスタファイル(master file)の二重化などの機能を備え、「データの保護」が十分に配慮されている。

◇こうしたDBMSを利用することによって、複数の独立したユーザが集中管理されているデータベースを同時に呼び出すことが可能。端末装置(terminal)からデータベースへデータを書き込んだり、読み出したりすることもできる。

◆1970年代になり、DBMS(データベース管理システム)のようなデータ情報サービスが出現した。In the 1970s, data information services like DBMS(Data Base Management System) began to appear.

◆DBMSパッケージの中のプログラムが、データベース自身とそのデータベースのユーザー(利用者)の間のインターフェースを設定する。The programs in a DBMS package establish an interface between the data base itself and the users of the data base.

◆データベース管理システム(DBMS)を使うことによって、プログラマは(コンピュータ内の)物理的なデータについて考慮しなくともよくなる。

6. データベースアドミニストレータ

database administrator<DBA> [←データベース管理責任者] ←→ MS-WindowsNT3.5 を使うところの言葉が現れる。ネットワークの仕事では当たり前の用語である。

※ 上記の辞典は古いようで、「クライアント」や「ダウンサイ징」などの用語を検索しても現れなかった。

パーソナルコンピュータを複数以上ケーブルで接続することを企画するといろいろな用語が飛び出してくる。ここからは、著者の独断と偏見による解説である。

1. クライアント

「サーバ」の反対語である。サーバをボランティアとすると

クライアントは奉仕を請ける立場を指す。サーバ・マシン或はホスト・コンピュータと呼ばれるサーバ・マシンへ通信回線を経て接続した、多くのパーソナル・コンピュータやターミナル・マシンのことをクライアントと呼ぶ。

2. 接続するケーブルの種類

2.1 10BASE 2

同軸ケーブル(3c-2v)の端末にBNCメタル・コネクタが付けられ、ターミネータと呼ぶ、通信制御用拡張ボードへBNCのT型コネクタを差し込んで、更に、複数以上のマシンへと接続する方式を指す。

2.2 10BASE 5

イエロ・ケーブルと呼ばれる同軸ケーブルに分岐用のトランシーバを設け、端末のコンピュータにターミネータを取付けて接続する方式を指す。

2.3 10BASE T

電話線の同じ形状のコンセントと8芯コードを使って、ハブと呼ばれる分岐BOXを使って複数の端末のコンピュータにターミネータを取付けて接続する方式を指す。ハブには8台分か、16台分の差し込みがあるが、このハブを複数付ければ、多数のマシンへ接続できる。

3. 伝送制御プロトコル

3.1 アップル・トーク (AppleTalk)

アップル・コンピュータ社のマシンに標準装備したネットワークのフルトコルを指す。これを武器に小規模のLANが簡単に組めてメール転送が出来ることで一躍有名になった。

3.2 TCP/IP

TCP<transmission control protocol>/IP<Internet protocol>と2つの方を組み合わせてUNIXマシンに多く採用されて、今話題のインターネットの標準プロトコルの王座を占めるに至ったのである。今では「NetWare」や「WindowsNT」にまで採用されている。

4. ISAM・ファイル

ISAM<Indexed Sequential Access Method>ファイルには、ユーザが入力したデータレコードの他に、各データレコードへ効率的にアクセスするための情報を含んでいる。この情報は「テーブル」や「インデックス」に残り、この情報があるから、レコード全体に簡単にアクセスできる。しかし、リレーショナルデータベース(RDB)独特のレコード、ファイルという概念がないから、LANで使うときは、これをサポートするソフトが必要である。

5. SQL

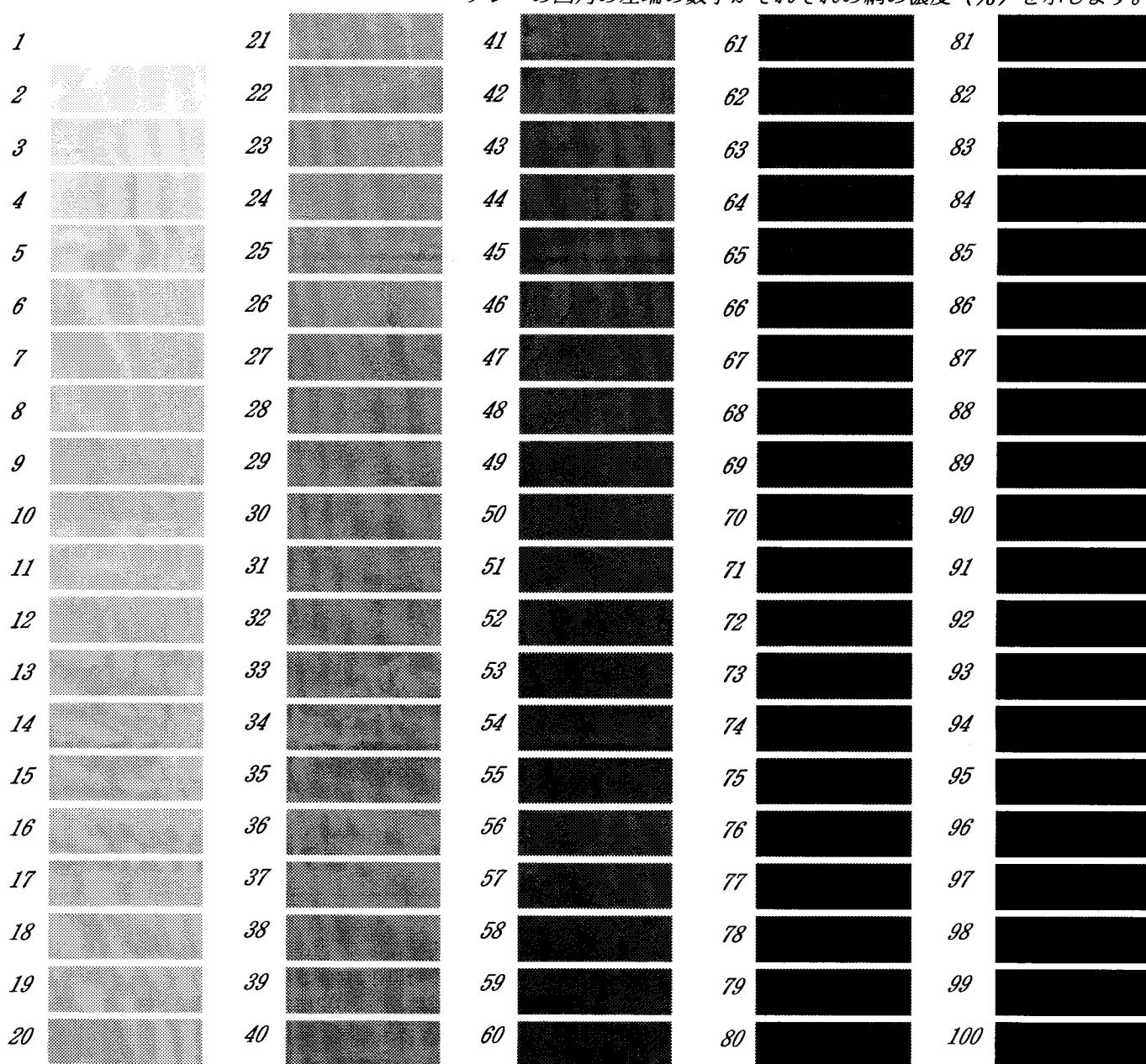
SQL<Structured Query Language>は、各データベースがもつファイルの形式やアクセスコマンドをISO(国際標準化機構)で規格化したデータベースを呼ぶ。

これで終わりにするが、現在ではLANが話題となると少なくとも解説した用語が飛かうので、知っておいて損はないと思う。

以上。

アルダスページメーカー5.0J
キャリブレーションチャート

使用プリンター エプソンESPER・LASER LP-9000 1200dpi
グレーの四角の左端の数字がそれぞれの網の濃度(%)を示します。



こん にち せ そん
今 日 世 尊

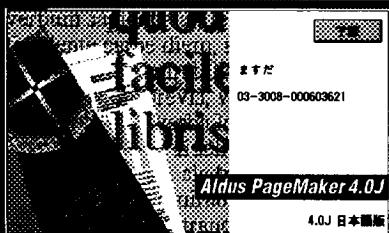
増田

今日の「今」という時間は人生には二度と訪れない。ましてや我々の充実したこの時を、のほほんと過ごしたのでは、あまりにも自分自信に対して申し訳ないのではないか。

裏千家の「今日庵」の命名は、千利休の孫、宗旦は晩年家督を三男の宗左にゆずり、不審庵の裏に隠居して、新しい茶室を作ったので名前を付けてもらうため大徳寺の和尚を招待したが。約束の刻限になってもみえないでの、別の用事で家人にみえたら「明日お越しください。」と伝言して外出した。入れ違いに訪れた和尚は、伝言を聞くと、茶室に入り紙に「懈怠比丘、不期命日」と書いて帰った。帰ってきた宗旦は、それを見て、無常の明日をあてにせず、今日の一日を大切にとさとした和尚の意を知り、早速和尚を訪ねて無礼をわび、この茶室の名を付けたと言うことが伝えられています。「今日」の自分が存在しなければ、今までの自分の行ないや未来もいいかけんに時を過ごすだけであり、本当の意味での自分とか人生とかは体感していないのです。

自分の生涯をつかさどる”今”なしに 過去も 未来も 存在しないのです。皆さんも考えてみて下さい。生きているとか、自分で人生を創作している実感お持ちですか、人生は一度きり。

デスクトップパブリッシング プロフェッショナル 部会 by masuda



Aldus PageMaker v4.0j で作成された文書

Aldus PageMaker v4.0j から、
Aldus PageMakerv5.0j へバージョンアップされた新しい機能の
検証講座をこのコールテンウィークの期間に開催致します



日時 5月7日(日)午後1:30より

場所 増田自宅にて (075) 981-0063・(982) 8064 各FAX共通。

当日 直接来宅OK



COOKING-DOS

No.5

元気いっぱいメンチカツ

(日本人が考え出した、
洋食界の腕白小僧)



竹田 計子

タマネギは細かいみじん切り、ガサガサと切った様な粗いものではだめ。挽き肉より大きいと、食べたときにタマネギだけが歯に残ってしまうからだ。タネの材料をボウルに入れたら、両手で底から持ち上げるようにして混ぜよう。ここで練ったらダメですよ。全体が満遍なく混ざればいいんです。練っちゃうと肉のネバが出て、食べたときにクチャとなっておいしくないんです。

タネの形づくり。まず手を湿らせる。木をつけておけば肉が手にくっかないから、一塊を左手に取り、まず、右手で表面を叩く、そのまま右手で持ち上げて左手の平に叩きつける。これを繰り返して、少しずつ回転させながら、表面に空気の穴が見えなくなるまで約20回。油はたっぷり使う油の量が少ないと、タネを入れた途端に油の温度が下がり、“揚げる”というより煮るようになって、油臭い出来上がりになってしまふのだ。

最初は沈んでいたメンチカツが浮いてきて、油のピチピチという音が小さくなってきたら、中まで火が通っている。大体3分弱だろうか。油から引き上げたら、網バットに立てかけてほんの10秒くらい油をきる。これが最後に忘れてはいけないポイントだ。

とりあえずは極めつきのメンチカツをめざそう。